

12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (沖縄)	◎	その他専門店 [陶器]（製 造）	販売量の動き	・注文数が増えており、客先からも外国人観光客が戻って きているとの話を聞く。
	○	商店街（代表 者）	来客数の動き	・現在少しだけ新型コロナウイルスの感染状況が落ち着い ているが、まだ厳しい面はある。少しだけ改善の方向に向 かっている。
	○	一般小売店 [酒]（店長）	来客数の動き	・観光客やインバウンドなどが増えてきている。今から期 待できる。
	○	スーパー（企画 担当）	来客数の動き	・4月は、入域観光客数の増加による県内経済の回復と、 新型コロナウイルス感染対策の緩和による清明祭などのハ レの日需要の高まりで、3月に引き続き来客数が増加とな り、売上実績が前年を超過した。
	○	コンビニ（経営 者）	来客数の動き	・来客数が回復しており、売上も前年よりやや良くなっ ている。
	○	コンビニ（副店 長）	販売量の動き	・前月はクルーズ船の寄港が少なく、思ったより販売量が 伸びなかったが、今月に入りゴールデンウィークもあり免 税品の販売量も上がってきている。
	○	衣料品専門店 （経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べるとゴールデンウィークの影響で月前半 は売上が良かったが、後半に入ると来客数が減り、全体で は良くも悪くもない。
	○	一般レストラン （代表者）	来客数の動き	・外食は地元客も観光客も増えている。団体の問合せも増 えてきており、少しずつ良くなっている。
	○	観光型ホテル （代表取締役）	来客数の動き	・宿泊の予約が堅調に入ってきているが、新型コロナウイ ルス感染症発生前の70%程度である。飲食宴会に関しま り、総会や懇親会などの利用があり増えているが同様に 70%程度である。経営では厳しい状況が続いている。
	○	観光型ホテル （企画担当）	販売量の動き	・ホテルの2月の販売室数が前年比770%増加なのに対し、 5月の販売室数は同比100%増加と、プラス幅が小さくなっ ている。
	○	旅行代理店（マ ネージャー）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になっ たことにより、旅行者が少しずつ戻ってきたことが影響し ている。
	□	百貨店（店舗企 画）	お客様の様子	・5月8日の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行 により脱マスクを期待したが、約9割の客がマスクを着用 しており、期待したほど大きな変化はないものの、変わら ず人の流れは回復している。
	□	乗用車販売店 （経理担当）	販売量の動き	・販売量も好調を維持している。
	□	乗用車販売店 （営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、県内 観光業も潤いを取り戻しているが、自動車販売は前年、 前々年の販売台数を下回っている。中古車販売もかなり厳 しい。
	□	住宅販売会社 （代表取締役）	来客数の動き	・数か月前から住宅や投資物件に関する建築相談件数が減 少傾向にある。
	□	住宅販売会社 （役員）	単価の動き	・住宅建築費の高騰が止まらず、分譲マンションや戸建で 住宅の価格高騰に対し顧客が二の足を踏む傾向にある。
	▲	その他飲食[居 酒屋]（経営 者）	来客数の動き	・例年、ビジネス街の飲食店はゴールデンウィークも、そ の後も客足は悪いが、今年は地元客の入客がいつもより悪 い。
	▲	通信会社（営業 担当）	販売量の動き	・販売数が前年と比べて70%と大きく落ち込んでいる。来 客数も同様の状態で、今のところは回復の兆しがみえな い。大変厳しい状態である。
×	—	—	—	—
◎	—	—	—	—
企業 動向 関連 (沖縄)	○	食料品製造業 （役員）	受注量や販売量 の動き	・ゴールデンウィーク後も観光客数の増加が続いており、 更にクルーズ船の入港も増え、新型コロナウイルス感染症 発生前の活気が戻ってきている。
	○	輸送業（経営企 画室）	それ以外	・観光産業関連の受発注量が新型コロナウイルス感染症発 生前の水準までは届かないが、好調である。
	○	会計事務所（所 長）	それ以外	・全国旅行支援の影響が継続しており、人的移動、交流が 盛んになりつつある。

	□	窯業土石業（取締役）	受注量や販売量の動き	・見積依頼は3か月前と比較すると公共工事、民間工事共に若干増加傾向であるが、受注は横ばいの状況である。
	□	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・小さな工事の受注はあるが、利益につながる大型工事の問合せ、進捗が止まっている。
	▲	—	—	—
	×	—	—	—
雇用 関連 (沖縄)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・求人依頼が幅広く来ている。新規も多く、事務関係、医療関係共に多い。数年ぶりに求人を再開している顧客もある。
	○	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が大幅に増加している。
	○	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・例年であれば8月頃に求人を頂いていた企業から、すでに求人が送られてきている。人手不足でより良い人材をいち早く確保したいという思いからの動きとみられる。
	○	学校〔大学〕（就職支援担当）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症に関する制限が明け、消費行動は活発になると考えるが、物価上昇により伸び悩みそうである。
	□	人材派遣会社（総務担当）	求人数の動き	・求人数については増加傾向にあるが、求職者の動きが鈍く、人手不足感が否めない。
	▲	求人情報誌製作会社（営業）	求人数の動き	・3か月前と比較し求人数は減少している。年明けから4月まではコロナ禍以降の中途採用において高水準を維持したものの今は減少となっている。それでも前年度の最高件数となった2023年3月とほぼ同数を維持している。
	×	—	—	—